

4. このままでは日本は教育後進国になる(世界の動きに逆行する日本)
別紙「アメリカの教育改革」参照

(会報担当者:増山 正 委員長)

学校法人
函館大谷学園 〒041-0852 北海道函館市明谷1-2-3 TEL:0138-51-5614 FAX:0138-52-6494
HPアドレス <http://www.hakodate.ctami.ac.jp>

函館大谷高等学校 〒041-0852 北海道函館市明谷1-2-3 TEL:0138-52-1834

函館大谷女子短期大学 [函館大谷短期大学]に改称予定
2002年4月男女共学スタート 〒041-0852 北海道函館市明谷1-2-3 TEL:0138-51-1786

函館大谷女子短期大学附属 大野幼稚園 〒041-1242 北海道函館市大野町通506-8 TEL:0138-77-9275

函館大谷女子短期大学 附属幼稚園 〒041-0851 北海道函館市本通2丁目18-6 TEL:0138-56-1038

(広告掲載:藤野 明信 会員)

◎ 4月3日出席報告

会 員	51名	出席率対象会員	49名
		出席規定免除会員	2名
当日出席	34名	当日欠席	15名
他クラブ出席	9名	出席合計	43名
出席率	87.76%		

・ テレフォンサービス(例会移動案内)電話 23 - 2377 番

次回・5月1日
プログラム

自主休会 5月8日 新入会員卓話
「函館市の木造老朽校舎
建替事業について」
函館市市民部交通安全課課長 紫前 雅夫 会員



函館北ロータリークラブ会報

2001~2002年度 国際ロータリーテーマ
国際ロータリー会長 リチャード D. キング

人類が私たちの仕事 MANKIND IS OUR BUSINESS

数下 義晴 会長テーマ 『楽しみと親しみのある出逢い・そして感動』



4月17日会員卓話 柴崎 晃 会員

《第1869回例会》 第39号 4月24日(水)

本日のプログラム

「函館校の国際交流、過去・現在・そして未来」

北海道教育大学教授 上山 恭男 氏

★会 長 数下 義晴 ★幹 事 藤野 明信

例会場:函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151
例会日:毎週水曜日 12:30~13:30 事務局:函館市大手町5-10 ニチロビル4F TEL23-3870

4月17日の記録

◎司 会 薮下 義晴 会長 ◎斉 唱 我等の生業

◎ビジター R. I. 第2510地区ガバナー補佐 酒井 正人 氏
R. I. 第2510地区ガバナー補佐幹事 川上 誠 氏
横浜中R. C. 石井繁夫君、函館R. C. 中山浩一君・神田勝美君、
函館五稜郭R. C. 藤山 林 君

◎会長報告 薮下 義晴 会長

- 酒井ガバナー補佐が本日訪問されています。
- 当クラブ40周年の実行委員長が中野 亮 会員に、幹事が南木哲雄会員に決まりました。

◎委員会報告

- 副会長報告 小笠原 孝 会長エレクト
地区協議会の報告と次年度の委員会構成についてお話しがありました。
- 職業奉仕委員会 北村 祐治 委員長
小冊子「わが社の職業奉仕の理念」が本日会員へ配布になった旨のお話がありました。

◎幹事報告 藤野 明信 幹事

- 当クラブ5月1日の例会は自主休会に変更です。
- 森R. C. より観桜会開催のご案内が来ております。日時は5月8日午後6時より、参加ご希望は幹事迄。
- 他クラブ例会変更：函館東R. C. 4月30日、函館R. C. 5月2日の例会は自主休会に変更です。

◎親睦活動委員会 山下 清司 委員

ニコニコBOX投入報告

R. I. 第2510地区ガバナー補佐 酒井 正人 氏……BOXに協力。
R. I. 第2510地区ガバナー補佐幹事 川上 誠 氏…… ”
横浜R. C. 石井繁夫副会長……BOXに協力。

薮下 会長……松前の桜開花宣言が今日ありました。
藤野 幹事……BOXに協力。
小笠原会員……地区協議会に行って来ました。
中川 会員……BOXに協力。
松見 会員…… ”
柴崎 会員……本日卓話です。
川村 会員……柴崎会員、卓話楽しみです。
粟飯原会員…… ”
山下(備)会員…… ”
調 会員……BOXに協力。

◎会員卓話 「今、公立小中学校が危ない!!」

= 2002年日本の教育が変わる = 柴崎 晃 会員

1. 2002年問題って何？(教科書が3割薄くなる)
現在の日本の教育は、「学級崩壊」「学校崩壊」「不登校児の増大」「校内暴力の増加」「いじめの陰湿化」「中途退学率の増加」等々数多くの問題点を抱えている。

こうした病理現象を生み出している原因が、「受験戦争」と「過重なカリキュラム」であるとの認識から、文部省は諮問機関である中央教育審議会に対し、指導要領の見直しを要請してきた。

これを受け、幼稚園から高校までの教育内容について検討してきた教育課程審議会は、98年7月審議のとりまとめを公表した。それによると、公立の小・中・高すべてに「完全週5日制」を導入し、「ゆとりの中で生きる力をはぐくむ」という方針に基づき、小・中・高とも授業時間数を週当たり2時間減らすことにした。

また基礎を確実に身につけるために小中学校では教育内容を現行から約3割削減し、実体験や発表・討論などを通じて考える力の養成をめざす新しいタイプの授業「総合的な学習の時間」を新たに設けることにした。

中学校では選択授業を大幅に拡大し、高校にはコンピューターを学ぶ必修教科「情報」を新設する。審議会では、これらの内容を答申としてまとめて発表した。これがいわゆる「新学習指導要領」である。新教育課程は小・中学校が2002年度、高校では2003年度の新入生から適用される。

しかし、現実には小・中学校では2000年度から準備段階である「移行処置」の期間となり、すでにかかなりの規模でカリキュラムが削減されている。一例として、小学校5年生の算数が「移行処置」の2年間でどれほど削減されているか見てみよう。

積・商の見積もり、台形・多角形の面積、体積の単位、立方体・直方体の体積、図形の概形、平均、速さ、文字を用いた式が削除される。その削除部分は、これまでの学習範囲の約3分の1にも相当する量である。

移行期間でさえこの削除だから、2002年度の本格導入では、いかに大量の削除がなされるか、容易に想像できるだろう。「教科書が3割薄くなる」というのは、決して、誇大表現とは言えないのである。

つまり、2002年問題というのは、これほどの大幅な教育内容の削減が、子供達の教育環境にどのような影響を与えることになるのか、という問題にほかならない。

2. 「新学習指導要領」の内容と問題点

(1) 新学習指導要領の内容と問題点

今回の改訂は1947年の試案作成以来6回目で、基本的には77年の「ゆとりの教育」の考え方が踏襲されている。今回の改訂の基本方針は次のとおりである。

生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で自らが学び、自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努める。

つまり、一言で言うなら、学校週5日制に合うように指導内容を削減するというにほかならない。

77年の「ゆとりの教育」以来学習内容は削減され続け、77年以前に較べ約半分になってしまっているのである。

(2) 総合的な学習の時間について

新設される「総合的な学習の時間」は小学校3年生以上を対象に、生徒が自分で学びたいことや調べたいことを見つけ、調べ方や発表の仕方を身につけることが狙いである。

各学校や教師が生徒個々に対応することが、はたして、可能なのか疑問である。

(3) 時間数・内容の削減について(学習時間が1割、学習内容は3割も削減)

完全週5日制の導入に伴う授業時間数の減少以上に、学習内容の削減量の多さが問題となる。学習内容の削減量が3割にもなっては今以上の学力低下は避けられないだろう。

3. 小学校での時間数・内容の削減(四桁の足し算がなくなる)

小学校課程では、「総合的な学習の時間」(105～110単位時間)を設けるため主要教科は大幅な授業時間数の削減を余儀なくされた。

〈算 数〉

例えば、台形の面積を求める公式が削除される。公式そのものを暗記すること自体に大きな意味はないが、公式を導く課程から子供達は幾何学の何たるかを学ぶことが出来るのである。そのような機会を子供達から奪ってしまうのは疑問と言わざるを得ない。

また、整数の乗法では二桁同士までで、三桁同士のかけ算は扱わないことになる。三桁の数字になれば、真ん中に0(ゼロ)の数字がくることがあり、途中の位取りに注意する必要があるが、これは実際にやってみて初めて身につけることができる内容である。また、整数の加法は三桁までで、四桁以上は扱わないことになった。では自分たちの住んでいる市町村の人口は計算できなくてよいことなのだろうか。

小数の計算では少数点第一位までで、二位以下は扱わないことになる。そうなると円周率は3.14ではなく、およそ3として計算せざるを得なくなる。

さらに、比例の式と反比例は、小学校では完全に削除され中学校に統合される。しかし、これでは、比と分数の関係が理解出来なくなってしまうだろう。

この他にも多くの学習内容が削除、軽減、中学校への先送りとなっている。

このように、ゆとり教育の名のもとに小学校の算数の学習内容はかなり中身の薄いものとなってしまっている。これでは、昨今、問題となっている「学力低下」にますます拍車をかけることになってしまうのではないだろうか。

〈国 語〉

「読み、書き」重視から「聞く、話す」へ

従来配当漢字(1006字)のだいたいを書くこととされていたのを「上の学年までに文や文章の中で使うこと」と改められている。つまり、6年の配当漢字(181字)については、小学校の段階では書けなくてもよいということである。

〈中学英語〉

アルファベットの筆記体が削除され、3年間で学習する単語数は1000語程度から900語程度に削減される。しかも、その中に必ず含めるものとして示されていた単語の数も507語から100語へと大幅に削除されてしまった。